

共学

# I・P・U・環太平洋大学 (International Pacific University)

## 「どこにもない大学」

環太平洋大学は、「これからの時代を担い、社会を築き上げていく力をもった若者の育成に挑む新たな大学へ」という理念のもと、二〇〇七年、岡山市に開学された。目指しているのは「どこにもない大学」。それはどのような学び

の場なのだろうか。副学長兼国際・教養教育センター長の小川正人先生に取材した。

「『四年後に責任を持つ教育』をキャッチフレーズに、勉強だけでなく学生の生活や将来についても寄り添っていく面倒見のよさが特色です。この学生と教職員の距離の近さが『どこにもない』ものだと思います」

## 三学部五学科の 多彩な学び

ベトナム、中国、韓国、ニュージーランドなどから二四〇人以上の留学生が在籍し、提携校のIPUニュージーランドへの留学プログラムも用意されている国際的な雰囲気のもと、学生たちは新しい学びに取り組んでいる。

「体育学部」には「体育学科」と「健康科学科」の二学科がある。

「体育学科」では「スポーツを科学する」という理念を掲げ、本格的スポーツ科学センター「INSPIRE」と連携して身体能力をはかりながら競技力を上げていく。それにより選手たちは記録を伸ばし、さまざまな記録保持者やオリンピック選手を輩出している。

「他学科の学生たちは彼らを誇りに思うし世界を身近に感じています」

「健康科学科」では健康とスポ

ーツを医学的側面からサポートすることや学び、国家資格である柔道整復師をはじめさまざまな資格にチャレンジすることができる。

「次世代教育部」は「こども発達学科」と「教育経営学科」から成り、教育について学ぶだけでなく次世代の子どもたちにそれをどのように伝えるかも学ぶ学部だ。模擬授業を積み重ね、実学教育に力を入れている。

「次世代という名前がついたのは教育というのは『つないでいく』ことが大切だからです。授業力、知識力だけでなく人間力がいちはん大切です。どれだけ子どもたちと正面からぶつかって話し合えるかを養っていきます」

「こども発達学科」は、二十世紀に受け継ぎたい人間力を育成できる保育・教育者の育成を目指している。

「教育経営学科」ではさまざまな視点から教育を見つめ、「次世代教育」を担う小学校・中学校・高等学校の教員を養成している。

「経済経営学部」の学科は「現代経営学科」が一つ。現代に焦点を当てて学ぶ学科だ。たとえば「どうして給料が上がらないのか」「どうして円安なのか」など身近な事



キャンパス内の道路から



DISCOVERY — 非認知能力育成の専門学舎

住所：〒709-0863

岡山市東区瀬戸町観音寺721番地

電話：086-908-0200

URL：https://ipu-japan.ac.jp

最寄駅：JR東岡山駅、瀬戸駅

交通手段：シャトルバス、自家用車、バイク

教員数：常勤127人

非常勤49人

外国人教員7人（常勤）

学生数：次世代教育学部 803人

体育学部 1,534人

経済経営学部 768人

例をとり上げ、それを世界の問題  
につなげ、理論を学んでいく。

学生たちがビジネスプランを立  
てブランドینگ事例コンテスト  
に出場したこともある。

「大学の周りに出てくる鹿の皮  
を使ってカップスリーブをつくり、  
中小企業庁長官賞を受賞しまし  
た」

地域の課題を解決するだけでな  
く学生たちがアイデアを出し合  
って商品化し、販売もしている。

「何度も使えるので環境にもい  
いし、イノシシや鹿の出現を『困  
たもの』と捉えるのではなく『命あ  
るものをいただいでいく』という  
ことでレシピも開発しています」  
実際に起業している学生もいる  
そうだ。

## 非認知能力を育てる

不確実な時代といわれる現在、  
学問を積み上げていくだけでは生  
きていけない。そこで、考えたり  
話し合ったり発信したりする力を  
育成するために「ディスカバリー」  
という学舎がつけられた。スピー  
チコンテスト、プレゼンテーショ  
ンコンテスト、ビジネスプランコ  
ンテスト、課題体験プロジェクト、  
各授業におけるディスカッション、  
プレゼンテーション等、多くの発  
表の場を用意して、学生のプレゼ  
ン力・企画提案力を育てている。  
一年生の前期には五学科の学生  
がまじって学び、後期は学科ごと  
に分かれて学ぶ。さら  
に、二年生では自分で  
見つけた課題を解決す  
る「探究」に発展させる。  
「特にSDGsの課  
題をそれぞれの学科に  
合わせてとり上げてい  
ます」

## 学生の声

経済経営学部の子  
はベトナム出身の四

年生だ。留学生別科  
で半年間日本語を学  
んで本科に入った。

「先生の対応が手  
厚いです。コロナの  
濃厚接触者になった  
とき、ゼミの先生が  
買い物をして家まで  
届けてくれました」  
授業については実  
践が学べるのが気  
に入っている。

「経営者でもある先生からマー  
ケティングのステップを学びまし  
た。グループで『ベトナム料理』  
というブランドをつくり、国際交  
流を兼ねて試食イベントをやりま  
した。その際、的確な商業活動を  
行うために市  
場のなかで適  
切なポジショ  
ニングをする  
にはどのよう  
にすればいい  
のかを学びま  
した」

四月からは  
日本の企業で  
働く。  
福岡の公立  
高校から経済



IPU ニュージーランド

経営学部に入  
学したTさんは留  
学システムがあ  
るのでこの学校  
を選んだ。実際  
に一年間、IP  
U ニュージーラ  
ンドキャンパス  
へ留学した。

「この学校は  
外国人留学生が  
多いのも魅力の  
一つです。一つのことに取り組む  
ときにその国のことを教えてもら  
えます」

三年生から就職支援をしてもら  
えることも魅力の一つだそうだ。  
企業、公務員、教員と三つの分野  
で試験対策を学ぶことができる。

「夢に向かって取り組む環境があ  
り、自分の中でステップを踏み大  
きく成長することができました」  
Tさんは公務員コースを受講し、  
そのかいあって四月から国家公務  
員として仕事に就くことになった。

「高校生のなかにはまだ目標を  
持っていない人もいます  
そういう人こそ、この大学に入っ  
て将来の夢を見つけてほしいで  
す」と結んでくれた。

（取材・文 高田和子）